

日本の学校教育のすばらしさの再確認を

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今週は、週に2回、中学校に行ってお話をさせていただきました。1回目は、今週の4日に群馬県みどり市の大間々東中学校に行き、中学2年生に立志式の記念講演をさせていただきました。2回目は、本日2月6日に足利市の富田中学校の1年生にお話をさせていただきました。
2. その2か所でもお話しましたが、私が学校でお話をするときは、学校で勉強することは役に立つのかというお話をよくさせていただきます。私の考えは、すべて役に立つということです。各教科の勉強も役に立ちますが、部活動や学校の様々な活動も役に立つというお話をさせていただきます。そのときには、日本の教育の特徴も少し詳しくお話します。
3. 私は時々外国に行かせていただき、外国の学校を訪問したり教育関係の方とお会いしたりします。そのときに日本の学校教育について話すと、「あー、これは素晴らしいことをやってるね」といわれます。学校でも外国のお話をしましたが、今日の放送でも少しご紹介させていただきたいと思います。
4. 日本の教育の特徴は、小学校にしろ、中学校にしろ、高校にしろ、教える教科の数が多くことです。例えば英語、数学、理科、社会、国語は、多くの国で小学校、中学、高校で教えられています。しかし、音楽や保健体育、美術、技術家庭のような実技教科といわれる教科については、教えている国もありますが、教えない国もあるようです。
5. 私が以前インドネシアに行ったときのお話です。そのときに、ヤマハ音楽教室を訪問させていただきました。その教室は非常に流行っていましたので、マネジャーの方に、なぜインドネシアのジャカルタのヤマハ音楽教室はこんなに流行っているのですかとお聞きしました。すると、インドネシアの方はとても音楽が好きなのですが、学校では音楽の授業のあるところが少ないということでした。インドネシアの学校では、音楽の授業は日本ほどは盛んに行われていない、そのようなお話をお聞きしました。
6. また、ベトナムでスイミングスクールを運営なさっているルネッサンスというフィットネスクラブの社長さんや会長さんと仲良くさせていただいており、お聞きしたところ、ベトナムの方もスイミングを勉強したいということでした。ただ、学校では体育の授業はあまりないそうです。特に、プールなどはほとんどなくて、ルネッサンスのスイミングの教室で初めてプールで水泳を習うということをお聞きしました。日本とは違って、技術家庭、音楽、美術、体育という実技教

科は、学校ではなかなか習わない国が多いようです。

加えて、日本では掃除当番や生徒会などの学校の教科外の教育も盛んです。文化祭、音楽祭、体育祭なども、日本ほど熱心にやっているところはあまり多くありません。

7. 体育の授業のほかに、部活動といういろいろなスポーツに親しむことができる活動もあります。この部活動も、日本の教育の素晴らしいところです。普通は、裕福な方々だけがスポーツクラブに入って、様々なスポーツをすることができます。しかし、日本には部活動があり、学校の先生方が無料で、本当に熱心に指導をしてくださいます。

私は、中学生ときに部活動で柔道を教えていただきました。毎日のように熱心に稽古をしていただきました。野球部の方は、小学校、中学校、高校で野球を練習することができます。サッカーやラグビー、剣道、バスケットボール、バレーボールなども学校で練習したり楽しんだりすることができます。一部では、部活動が盛んになり過ぎて問題もあると言われています。しかし、ほとんどの国ではスポーツは有料といますか、お金を払ってスポーツクラブ等で習います。

コーラス部やブラスバンドなどの音楽活動やいろいろなクラブはたくさんありますが、よほどお金のある方しか活動をやりにくいし、なかなか親しむことはできません。ですから、日本の部活動は非常に優れていると思います。

8. そのほかには、修学旅行や社会体験授業などもあります。能や狂言を見たり音楽を聞いたりして芸術に親しむことも、他の国ではなかなかやっただけません。このような素晴らしい活動を、難しい言葉では「隠れたカリキュラム」といいます。英語では「**The Hidden Curriculum**」(隠れたカリキュラム)といい、日本の教育の特色となっています。

9. あまり知られていませんが、日本の不登校の方の数は、他の国と比べて非常に少ないです。極端に少ないといわれています。先生方、家庭の保護者の方々、それから地域の方々が、一人ひとりの子供をよく見守ってくださっています。そして、学校に行って勉強することをよいことだと考え、学校、家庭、地域が連携をして、子供たちを熱心にサポートしてくださっています。そのお陰で、不登校の方が他の国に比べて非常に少ないということだと思えます。

ほかの国では、学校に行かないと、あーそうですかと放っておかれてしまいます。しかし日本は、丁寧に丁寧に勉強を教えてください。ただ、問題点があります。ほかの多くの国では、学校の勉強が遅れた方には留年といいますが、落第制度があります。勉強があまり身に着いていない方はもう1年ということです。ですが、日本は原級留置(げんきゅうりゅうち)がありませんので、そのまま卒業してしまう場合が多いです。このように問題が少しはあるかもしれませんが、日本の教育制度はとてもうまくできていると私は思います。

10. 以上のような話を、中学校や高校でさせていただいています。日本の教育のよいところを十分に活用していただき、立派な方になって、小学校、中学校、高校、大学、大学院を卒業してもらいたいと思います。

今日は、中学校や高校に時々行ってお話をさせていただいていますので、その中身を少し紹介させていただきました。日本の教育のよさを活用して、立派な子供たちに育てていただきたい思います。